

会報



◇史学会総会

第八回奈良大学史学会総会は、五月二十六日(土)、C-1三〇二教室に於いて開かれ、一九八九年度の事業・会計・会計監査の各報告が行われた。次いで一九九〇年度の役員人事案・年間事業計画案とそれに伴う予算案が提示され、全て原案通り承認された。

一九九〇年度の役員は次のとおり。

▽会長 菅野 正

▽副会長 堀内一徳

▽教員委員 (監事) 松山宏 水野柳太郎

(編集) 守山記生

(庶務・会計) 青木芳夫

(庶務・雑誌交換) 森田憲司

▽学生委員

木村和代(代表) 米田武弘(副代表) 長尾芳子(総務)

三村多香子(書記・会計) 稲村美貴、小川美由紀、栗田賢

坂口弘貢、中野一平、大木彰、勘村雅子、澤田潤、妹尾真

二、堀有希、宮内敦子、奥田雅也(広報) 岡本和美、蒲池清士、塩田才恵子、中堀夏樹、橋本裕史、姉川裕一、林由香子、平島祐子、前野弥生、高橋都、田中宏明、虫明富美、川本哲也、中村直臣、橋本隆弘、牧田留美(編集)

◇春季講演会

五月二十六日(土)、史学会総会に引き続き、例年の通り、奈良大学史学科・史学会共催による特別講義が左記のように行われた。

神戸大学名誉教授 山瀬善一氏

「ヨーロッパにおける経済倫理の基礎―歴史的概念としての自由・平等・公平を意味するもの―」

大阪市立大学名誉教授 直木孝次郎氏

「奈良時代の後宮について―平城京出土の木簡を手がかりに―」

◇現地見学会

今年度の春期現地見学会は、六月二十三日(土)に、鎌田教授引率のもと、興福寺で行われた。

蒸し暑い一日であったが、他学科生の二名を加えたかなりの人数の学生が参加した。

先ず北円堂に案内していただき、興福寺執事の森谷英峻

氏から法相や唯識についての説明を受けた。この後、東金堂、国宝館を案内していただいた。

奈良の大学に通い、近くに住んでいながら、訪れたことがなかったという人が多く、来て良かったという声が多数聞かれた。

今後、奈良という所を身近に感じられる場所を選んで、この現地見学会を行っていきたいと考えている。

◇定期講習会

年に二度、定期講習会と名付けて史学研究に有益なビデオや映画等の上映を行なっている。六月には「CRY・FREEDOM—遠い夜明け」というアパルトヘイト問題を扱った映画を、十月には「2・26」を上映した。二度とも多くの学生が集まり、盛況のうちに定期講習会は終わった。

◇卒論中間報告会

十一月十七日、二十四日の二週にわたって、C—二〇三教室に於て卒論中間報告会が行われた。本年度で七回目を数えるが、年ごとに多くの学生が集まり、熱心に報告を聴いていた。質疑応答も活発であった。

本年度の報告者と論題は、次のとおりである。

〇十一月十七日

尾上 明「出雲国造の神賀詞奏上について」

鈴木知子「『要助日記』から見た幕末京都」

林 純子「中国古代の民間医薬」

亀山典子「『死者の書』第一二五章を中心に」

森口直美「ルネサンス絵画の形成—フィレンツェを中心に—」

〇十一月二十四日

白川 朗「南北朝初期の伊勢神宮」

塩川龍一「北伊豆地方における農民運動の展開—丹那ト

ンネル工事と渇水問題をとおして—」

満友洋行「明代皇帝独裁下における宦官の専横について」

橋本昌史「異民族の侵入とマヤ文明」

◇「史学会会報」等の発行

史学会行事の案内など、史学会の活動の普及を目的とする「史学会会報」であるが、本年度は、予定通りの発行の他に号外を発行した。また、例年にひきつづき、小冊子「歴史学への扉」を発行。一年次生を対象とした参考図書を紹介で、教員と学生委員が共同執筆し、その他に折り込み付録として一年次生を対象とした各講読紹介もつけくわえら

れ、より充実した内容となった。

◆会員動向

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、台南大天后宮における媽祖大祭の参観を主たる目的として、一九九〇年四月十五日から二一日までの間、台湾を旅行し、あわせて祭典のビデオ撮影、資料収集をおこなった。

○松山 宏氏（日本中世史担当）は、八月初めから中旬まで西欧を旅行した。感銘をうけたのはローマの遺跡発掘で、我国とは比較できないスケールで行われている。ベルギーのブリュッセルに残る幾つかのギルドハウス、スイスのベルン、西独のハイデルベルクにみられた中世都市の景観からも強い印象をうけた。

○菅野 正氏（東洋近代史担当）は、義和団運動九十周年にあたって、中国史学会、中国義和団研究会、山東省社会科学聯合会、山東大学四者共催で、山東省済南市において、十月七日より十一日まで開かれた「義和団運動与近代中国社会」国際學術討論会に参加のため中国に出張した。当会で研究報告を行い、中国内外の研究者と交流した。また義和団運動関係の史跡を見学し、若干の資料収集を行った。

平成元年度史学科卒業論文

〔日本史〕

吉備真備について

赤坂 尚子

— その出身及び昇進における特異性についての一考察 —

壬申紀成立試論

小山 輝雄

早良親王について

神戸 忠一

— 藤原種継暗殺事件を中心に —

藤原仲麻呂について

杭田 健一

女官の一考察

久保田篤子

— 内侍司の昇進を中心にして —

賜封について

小磯 郁子

道嶋宿禰一族について

近藤 順

— 嶋足の功績・昇進とその背景 —

班田収授の一考察

佐藤 康弘

— 西海道戸籍の受田額について —

八世紀末の軍制について

新見 晃

律令期の軍団について

田口 芳樹

齋宮寮について

中田 裕之

称徳朝における官司の一考察

中村 敦子

「造東大寺司」について

中山 智恵

内豎について			
古代の駅制について			
造東大寺司の成立過程			
五位々封の考察			
律令制下に於ける改賜姓			
—津・船・葛井氏を中心として—			
橘諸兄について			
律令における司法制度	☆	☆	☆
元寇をめぐる鎌倉幕府の動向			
—利益の変化について—			
中世における地藏信仰			
—越後上杉氏と京都および相模北条氏との関係—			
後南朝を支えた人々			
上杉氏の対外交流について			
元寇とその影響			
室町幕府の將軍権力の確立			
鎌倉初期に権勢をふるった公家女性			
天皇と八幡信仰			
—字佐使を中心にして—			
播磨の守護大名、赤松氏について			
半田 智子	半田 裕二	中世奈良における郷民の成長	島田 謙一
藤田 琢也	板谷 裕二	吉川元春の生涯	十字 立哉
北条 朝彦	太田 喜重	—毛利氏と吉川氏—	
松野 睦史	奥野 栄士	蓮如と本願寺について	
丸山 美和	奥村 倫子	中世における六郷満山衰退過程	杉田 正己
森田 美香	鎌田 雅子	鎌倉幕府の海賊禁圧について	鈴木 英文
伊藤 功雄	金澤 里美	—瀬戸内海を中心に—	竹内 晶子
	小林 裕幸	豊臣秀吉の京都市街地の再建	西村 圭吾
		—お土居を中心とした—	
		中世後期国人の動向	藤沢 高広
		—北信濃国人高梨氏について—	
		北條政子	増井 志帆
		—行動・思考・人柄の考察—	
		日向の国をめぐる伊東・島津両氏の争い	松葉 勝嗣
		—戦国期を中心に—	
		織田信長の宗教政策について	萬本 利明
		—宗教観と戦略—	
		織田信長の後継者	三原 晴美
		—織田三兄弟を中心に—	
		北陸の一向一揆	宮崎 正裕
		—守護家・富樫氏を中心に—	
		戦国時代の管領細川氏について	山本 隆行

戦国後期における都市流通政策について

小網 豊

江戸時代における都市問題としての麁芥年貢徴収方の変遷からみる福知山藩藩政と農民生活

藤尾 和美

☆ ☆ ☆

戦国期における商品流通について

今井 暢之

近世海上交通の発達と海難救助

藤田 寿啓

近世中期以降の米市場について

大森 正章

近世大坂における町人生活について

山崎 幸美

幕末・維新时期における佐賀藩の特質

加藤 啓進

「お町内」についての一考察

☆ ☆ ☆

江戸時代草創期における大名政策

阪本 昌彦

近代交通機関と地域社会

青木 義孝

公娼制の成立と私娼対策

柴崎 康夫

和歌山県日高地方を中心として

総力戦体制末期に於ける軍工廠の進出と地域変貌

天草 千晶

戊辰戦争に見る幕末期の兵器と兵法について

鈴木 亨

中島飛行機半田製作所を中心として

近世後期における栃木河岸と栃木商人の行動

須永 和子

明治期中河内地区における農民層分解と近代産業の生成

池辺 陽一

嘉永期の海防策にみる幕閣の対外意識

住吉 綾

第一次大戦期における社会運動の展開

小東 弘

江戸中期以降における河内の綿作について

谷口 隆紀

石川・尾小屋鉱山ストライキを素材として

鎖国体制下に於ける長崎貿易の推移

中越 本子

明治期における木津川治水

駿河 正行

幕末期における大坂湾防備をめぐる海防意識

濱本 法子

大阪府における遊廓の変遷

田中 裕嗣

近世 伊丹に於ける酒造業の展開

林 公子

全国的にみた取締規則の変遷と大阪における遊廓の実態

天保改革期における株仲間解散をめぐる適塾から見た幕末の人材発掘

原 英之

平岡 雄介

近世大坂における家質と家屋敷の売買をめぐる

福田ふみ子

小津家を中心として

田畑 寛一

紀伊半島南部の出稼移民に関する一考察
日本産業革命期の地域社会に於ける特質
と問題点

寺本 尚史

倉敷市発展の歴史的考察

安原 康浩

唐津地方における銀行合同

中 史人

淀川治水に関する一考察

今村 雅彦

— 唐津銀行と西海商業銀行を中心として —

〔東洋史〕

中国の生活文化における茶について

磯部 史子

尼崎市における重化学工業の発展過程について

西田 裕史

唐代後期の宦官について

宇佐美 勝

戦前期地主制の研究

橋本 尚保

中国古代国家における兵制について

内本 重一

— 石川県羽咋郡の事例 —

蜀漢政権と豪族

影山 英之

和歌山における大正デモクラシー

藤根ゆかり

宋・元代に於ける塩の生産形態と労働者について

児嶋 哲哉

— 普選運動と政党抗争について —

静岡における幕末から明治初期の教育について

細田 恵

唐代の身分制度について

永松 美佳

— 静岡学園所を中心として —

工業都市・延岡の形成と旭化成

堀口 敬子

— 私賤民を中心としての一考察 —

長谷川 清

— その意義と相互発展について —

三重県における米騒動

前田 幸則

漢代の都市制度について

榎田 達哉

近代都市と工業化

三好 智子

司馬遷の対匈奴戦における將軍観

萬谷 吉明

— 福山市の場合 —

宇部における鉱業の発展と賃労働問題

村上 文子

唐代における新興勢力の官界への進出について

山脇 一幸

萩市見島における共同負債

安江恵美子

☆ ☆ ☆

津田 真希

— その成立と背景 —

中国における日本のアヘン政策

澤田 勝利

モンゴル独立革命

島田しのぶ

明代塩業についての一考察

橋 正樹

— 専売制をめぐって —

台湾民主国について

藤下 良一

「満州国」建国の過程

舛田 寿子

— 日本軍の侵略を中心に —

ガンディーとビルラ

村崎 邦子

— 国民会議派とインド財閥 —

第一次大戦期の中国

山田友香子

— 関税改訂問題を中心とする紡績業の動きについて —

〔西洋史〕

ポリス社会における奴隸制

小崎 武

— 古典アテネを中心にして —

エジプトのミイラ

日高 羊子

— 古代エジプト人の死生観 —

初期教会史

今藤 達徳

— 何が彼らに力を与えたか —

ゴヤとその時代

苫居 健史

☆

☆

☆

フランス革命の内部構造

澤本 尚人

アンシアン・レジーム末期における財政の破綻

二宮 誠

叙任権闘争について

古谷 剛洋

フランク王国の発展と教会の関係について

宮下 喜和

☆

☆

☆

日米開戦外交

飯嶋 健

19世紀アメリカの経済について

石橋 亮浩

— 合衆国産業資本の形成 —

インカ社会における自然と生活

岡本 聡美

後古典期のマヤ文明

折野 久美

ピノチエト政権下のチリについて

竹本 公一

スペイン内戦とバスク

忠政 貴子

— 地方自治の獲得へ —

スペイン領アメリカにおけるエンコミエ

藤枝 浄

ンダに関する一考察

古吉 弘治

第二帝制ドイツ帝国の内政と外交

森田 康代

— 宰相ビスマルクの政治 —

アメリカ黒人奴隸制に関する史的考察

山梨 稔

— 一八五〇年から一八六五年まで —

イギリスの宥和政策

山梨 稔

— チェンバレン時代にみられるその目的 —

受贈雑誌及び図書(自一九八九年十二月
至一九九〇年十一月)

○雑誌

- アカデミア(南山大学) 人文・社会科学編 第五一、五二号
アジアアフリカ言語文化研究(東京外国語大学アジア・ア
フリカ言語文化研究所) 第三八、三九号
アジア研究所紀要(亜細亜大学アジア研究所) 第一六号
愛知大学総合郷土研究所紀要 第三四、三五輯、奥三河特
集号

- 愛知大学文学論叢(愛知大学文学会) 第九三―五輯
岩手史学研究(岩手史学会) 第七三号
お茶の水史学(お茶の水女子大学読史会) 第三二、三三号
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館研究紀要 第六号
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 一九八九
大谷大学史学論究(大谷大学文学部史学科) 第一―三号
岡崎市史研究(岡崎市史編纂委員会) 第一二号
鹿大史学(鹿児島大学法文学部史学地理学教室) 第三七号
海南史学(海南史学会) 第二八号
学習院大学史料館紀要 第五号
学習院大学東洋文化研究所調査報告 第三〇、三二号

漢学研究通訊(漢学研究センター) 第八卷第三、四期、第九卷
第一―三期

- 関西学院史学(関西学院大学史学会) 第二三号
キリスト教史学(キリスト教史学会) 第四三、四集
紀尾井町史学(上智大学大学院史学専攻院生会) 第九号
京都市歴史資料館紀要 第六号
京都橘女子大学研究紀要 第一六号
熊本史学(熊本史学会) 第六六・七号
皇学館史学(皇学館史学会) 第三号
四天王寺国際仏教大学紀要 文学部第二二号、短期大学部
第三〇号
史学(三田史学会) 第五八卷三・四号、第五九卷第一、二
号
史観(早稲田大学史学会) 第一二二、一二三冊
史泉(関西大学史学・地理学会) 第七一、二号
史艸(日本女子大学史学研究会) 第三二号
史窓(京都女子大学史学会) 第四七号
史叢(日本大学史学会) 第四三、四四、四五号
資料館紀要(京都府立総合資料館) 第一八号
滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要 第二三号

秋大史学(秋田大学史学会)第三六号

就実女子大学史学論集 第四号

上智史学(上智大学史学会)第三四号

人文学報(東京都立大学)第二一六号

住友史料館報 第二〇、二一号

西洋史学報(広島大学西洋史学研究会)第一六、一七号

西洋史論叢(早稻田大学西洋史研究会)第一一号

聖心女子大学論叢 第七四、七五集

専修史学(専修大学歴史学会)第二二号

双文(群馬県立文書館)第七号

創価大学人文論集 第二号

高円史学(高円史学会)第六号

千葉史学(千葉歴史学会)第一六号

近松研究所紀要(園田学園女子大学近松研究所)創刊号

土浦市立博物館紀要 第二号

中央史学(中央史学会)第一三三号

中国水利史研究(中国水利史研究会)第一九号

帝京国際文化(帝京大学文学部国際文化学科)第一号

帝京史学(帝京大学文学部史学科)第五号

帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第二集

東海史学(東海大学史学会)第二四号

東洋史苑(龍谷大学東洋史学研究会)第三四・三五号

東洋大学文学部紀要 史学科編一五

東洋文化学科年報(追手門学院大学文学部東洋文化学科)

第四、五号

寧楽史苑(奈良女子大学史学会)第三五号

二松(二松学舎大学大学院文学研究科)第四号

二松学舎大学人文論叢 第四二、四三輯

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二〇集

二松学舎大学論集 第三三号

日本研究(国際日本文化研究センター)第二、三号

日本古代・中世史研究と資料(史歌会)第六号

日本思想史研究(東北大学文学部日本思想史学研究室)第二二二号

日本常民文化紀要(成城大学大学院文学研究科)第一五輯

日本仏教史学(日本仏教史学会)第二四号

日本文化史研究(帝塚山短期大学日本文化史学会)第二二二号

号

日本モンゴル学会紀要 第二〇号

日本歴史学協会年報 第四号

号

新瀉史学(新瀉史学会) 第二四、二五号

年報中世史研究(中世史研究会) 第一五号

花園史学(花園大学史学会) 第一一号

兵庫県の歴史(兵庫県史編集専門委員会) 第二六号

白山史学(東洋大学白山史学会) 第二六号

弘前大学国史研究(弘前大学国史研究会) 第八七、八八、八九号

八九号

富士論叢(富士短期大学学術研究会) 第三四卷第二号

文化史泉(武蔵大学日本文化研究会) 第一集

法政史学(法政大学史学会) 第四二号

法政史論(法政大学大学院日本史学会) 第一七号

北大史学(北大史学会) 第三〇号

御影史学論集(御影史学研究会) 第一五号

三井文庫論叢 第二三三号

密教学(密教学会) 第二三二二五号

民具マンスリー(神奈川大学日本常民文化研究所) 第二二

卷第五一—二号、第二三卷一—八号

明代史研究(明代史研究会) 第一八号

モンゴル研究(モンゴル研究会) 第一二二号

monsoon(広島大学文学部アジア史研究室) 第三号

鷹陵史学(仏教大学歴史研究所) 第一五号

横浜市立大学論叢 第四〇卷第一号

横浜商大論集(横浜商科大学学術研究会) 第二三卷第一、

二号

米沢史学(米沢史学会) 第六号

立命館史学(立命館史学会) 第一一号

琉大史学(琉球大学史学会) 第一六号

龍谷史壇(龍谷大学史学会) 第九五、九六号

歴史(東北史学会) 第七四輯

歴史・人類(筑波大学歴史・人類系) 第一八号

○図 書

公卿補任年紀編年索引 自文武天皇元年延暦十年 皇学

館大学資料編纂所

群馬県立文書館収蔵文書目録七、八 吾妻郡吾妻町 伊能

家文書(二)、(三)

五代史研究文献目録 吉田寅・鳥谷弘昭編 立正大学東洋

史学研究室

シンポジウム考古学と中世史研究資料集 帝京大学山梨文

化財研究所

中国塩業史研究文献目録 吉田寅編 立正大学東洋史学研

究室

日本思想史の諸問題 三木正太郎著 皇学館大学出版部

豊後国都甲荘三 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

民具実測の方法2 ー漁具ー 神奈川大学日本常民文化研

究所調査報告第一四集

民具実測の方法3 ー生活用具ー 神奈川大学日本常民文

化研究所調査報告第一五集

湯之奥金山遺跡 第一次調査概報 湯之奥金山遺跡学術調

査団

編集後記

◇第八号をお届けします。一区切である第十号にあと少し
となりました。ともかく、第九号、第十号とさらに充実
させて読者諸氏のご期待にそうようにしたいものです。

◇森本轟先生は、ご多忙中にもかかわらず、ご労作の原稿
をはやばやとお寄せいただきました。安田真紀子さん
は、鎌田先生の研究室でいままなお研究を続けている本
学の一九八八年度の卒業生です。巻頭論文の菅野正先生

は、会員動向にもあるように今年十月中国で開かれた国
際学会で研究報告もされた専任の教員です。また会報の
原稿書きをしてくれた史学会の学生の代表である木村和
代さんをはじめ学生委員諸氏のご努力にもお礼を申しのべ
ます。

◇本号は、日本史、東洋史、西洋史の論考各一篇ずつの構
成となりました。どうかご賞味下さい。

(N生)

奈良史学 第八号

一九九〇年十二月発行

奈良市山陵町一五〇〇

奈良大学文学部内

発行者 奈良大学史学会

会長 菅野 正

電話 (054) 811-251(代)

振替 大阪九一三二五九九番

印刷所 (有)藝林美術出版社